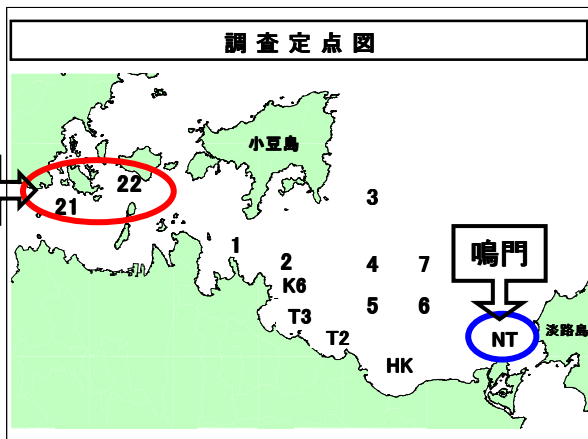


カタクチイワシ卵稚子出現状況

(2009. 6- 2)

香川県水産試験場 宮川

TEL: 087-843-6511



調査方法

調査日: 6月16日

調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳

調査定点: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2点+鳴門1点(中旬のみ)

(調査定点図参照)

【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	14点平均値
2007.6.19	0	0	0	1	0	9	1	1	0	0	0				1.1	
2008.6.19	0	0	0	1	0	31	74	34	1	4	0	0	0	23	13.2	12.0
2009.6.18	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0.1	0.3
2010.6.16	1	3	2	40	264	0	0	644	52	7	1	0	0	0	92.2	310.0

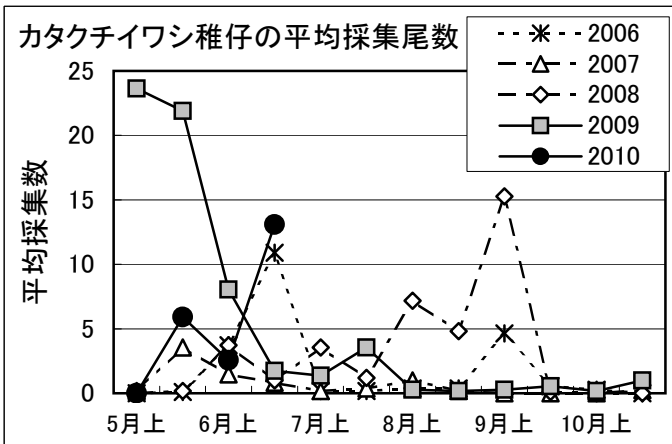
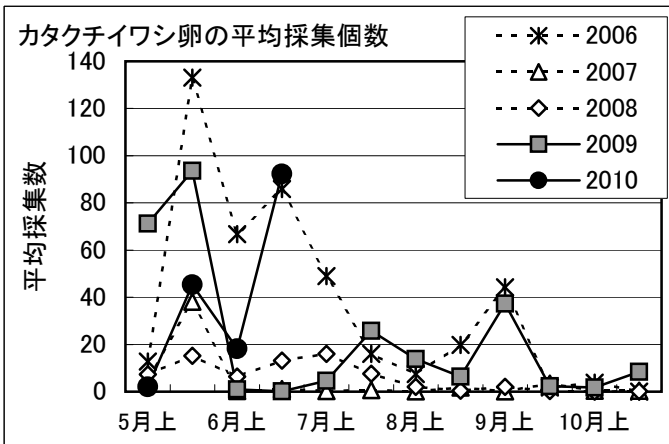
【カタクチ稚子】 定点別出現尾数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	14点平均値
2007.6.19	0	0	4	3	0	1	1	0	0	0	0				0.8	
2008.6.19	0	0	1	4	0	3	1	0	0	1	1	0	0	1	1.0	0.9
2009.6.18	0	0	2	3	0	5	9	0	0	0	0	0	0	5	1.7	1.7
2010.6.16	0	13	21	19	30	0	1	34	14	4	8	0	0	2	13.1	84.0

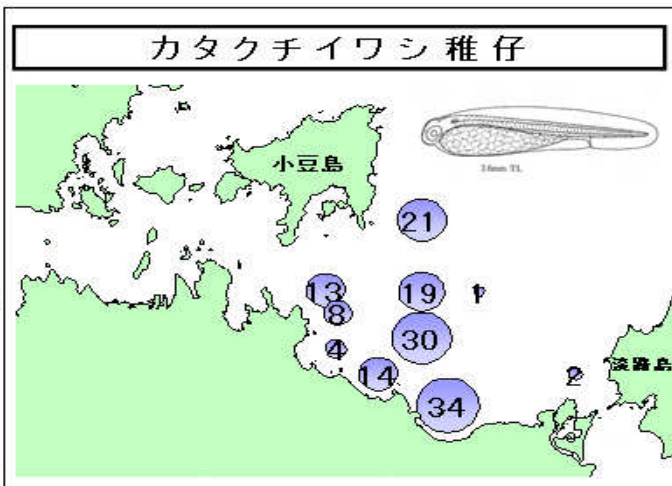
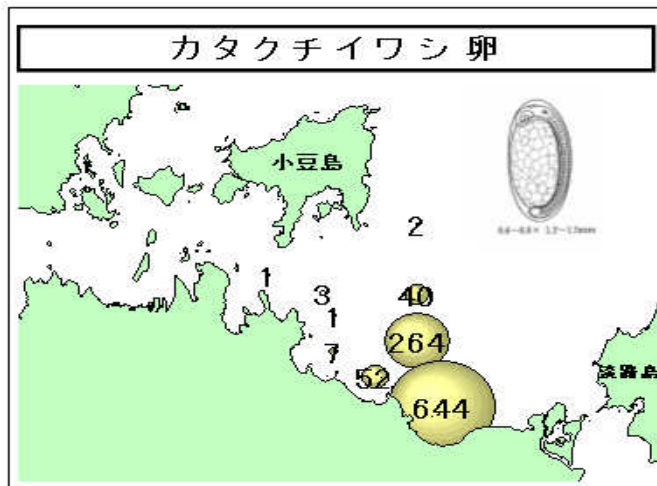
* 表中の「-」は未測定を表す。

* 11点平均値: 播磨灘11定点の平均値を表す(備讃瀬戸および鳴門を除く)。

* 14点平均値: 播磨灘11点+備讃瀬戸2点+鳴門1点の平均値を表す。



* グラフの値は播磨灘11定点における平均値を表す。



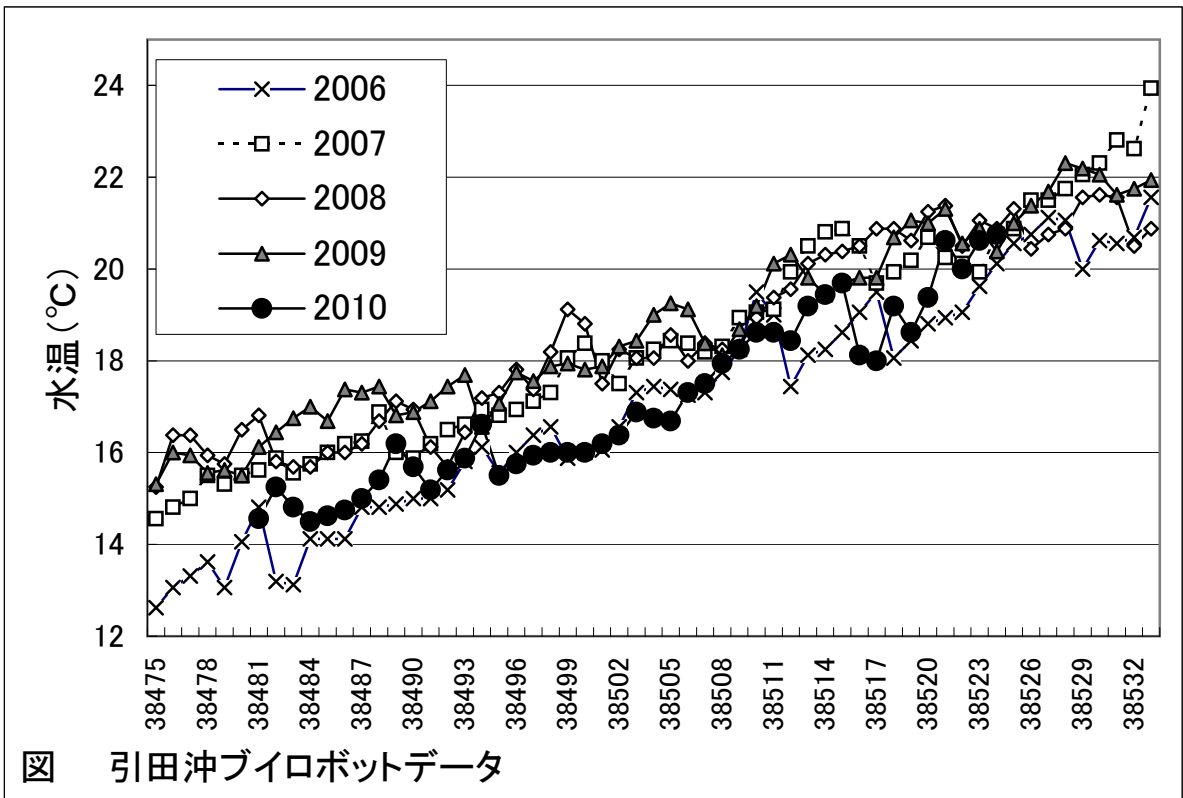
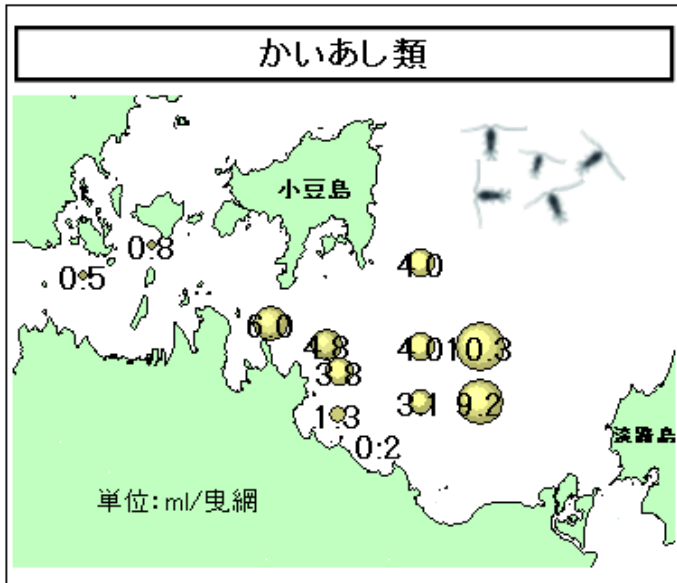
播磨灘11定点における卵の平均出現数は約 92個となり、昨年同時期を大きく上回った。引田から東讃地先の定点での出現が多かった。

一方、稚仔の出現は約 13尾となり、昨年同時期を大きく上回った。稚仔の出現は灘部西部の沿岸から沖合いで出現が多かった。

引田沖に設置した水温ブイ(午前9時)によると、5月中旬以降の水温は平年並みから著しく低めの間で大きく変動しながら推移し、現在は平年並みとなっている。

餌料生物として重要なかいあし類は、沖合でやや多い傾向であり、11点の平均は前回の4倍程度に増加した。

【参考】



※カタクチワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチワシ卵稚仔速報」でも公開しています。
<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/>